



千葉市議会議員(中央区選出)

# 三井みわこ 議会報告

川  
NO.7

未来の福祉をこの街に!

## 平成24年第4回定例市議会報告

第4回定例会が終了しました。(11月27日～12月14日)

本定例会に市長から提案された議案件数は、全65件(専決処分1件、補正予算議案3件、条例議案50件、一般議案7件、人事案件4件)、議員からの発議12件(条例1件、意見書10件、決議1件)、また、市民の請願1件が審議されました。

その結果、市長提案のうち64件の議案等については、全会一致もしくは賛成多数で原案どおり承認・可決・同意され、1件の議案は継続審査となりました。議員発議は、条例1件が否決、意見書10件と決議1件が全会一致もしくは賛成多数で可決されました。請願1件は不採択となりました。

なお、本定例会の会期中に提出された陳情1件は、継続審査となりました。



### 「認知症高齢者に対する支援について」

平成24年第4回定例市議会一般質問

わが国は、未だかつて経験したことがない超高齢社会、前人未踏の社会に突入しています。本市においても同様で、年金、医療、福祉において様々な課題がございますが、中でも認知症高齢者への対応は急を要します。今回は、千葉市における認知症高齢者に対する様々な支援策について、一般質問をさせていただきました。

#### 三井みわこの質問①

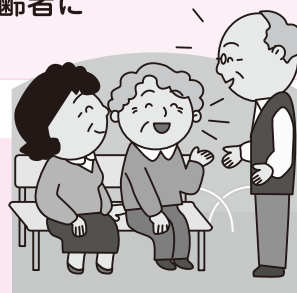
わが国の認知症高齢者数は既に300万人を超え、当初の予測より10年も早いスピードで認知症高齢者が急増している事実が示されている。当局は今回の国の発表を受けて、本市の認知症高齢者の推移は、今後どのように変わると考えているか?



**【答弁】** 本年8月に公表された認知症の出現率の見込みと本市の将来推計人口を基に算出すると、平成27年度は約25,000人、平成32年度は約30,000人、平成37年度は約34,000人となる。

#### 三井みわこの質問②

この予測は、今後、本市における認知症高齢者に対する支援策、介護保険サービスの供給見込み量にも関わるので、是非、計画の精査を要望する。平成24年現在で、65歳以上の高齢者の10人に1人が認知症、75歳以上では、4人に1人。今や認知症は、わが国における国民病と言っても過言ではない。



次に、平成23年度、千葉市における認知症高齢者数の所在について、在宅、施設、医療機関等、それぞれ何人か?

**【答弁】** 本市では、特別養護老人ホーム等の入所者が36%で約5,000人、医療機関に入院中の方が14%で約2,000人、在宅が50%と最も多く、約7,000人となる。

## 三井みわこの質問 ③

今回の予測を考慮すれば、実際はもっと多いと考えられる。認知症高齢者の内、半数以上の方は在宅で生活されていることには変わりはないが、本年度から推進されている地域包括ケアは、正に、この認知症ケアのためにあると言われていが、認知症ケアは、徘徊、妄想、幻覚・幻視、異食行為、暴力・暴言等々の周辺症状いわゆるBPSDに対するケアである。当局は、このようなBPSDを地域で支えられると考えているのか？

**【答弁】** BPSDのある方に対しては、鑑別診断等を行い、適切な治療に結びつけることが重要なことから、本市と認知症疾患医療センターが中心となって、地域の認知症に係る専門医療機関、精神科病院などと連携し、対応できるよう体制作りを進めている。また、介護する方の負担を軽減することも重要であり、認知症相談コールセンターが、介護者の悩みや不安について相談を受けているほか、あんしんケアセンターでは介護保険サービスなどの情報を提供している。

## 三井みわこの質問 ④

今の答弁からは、地域で周辺症状は支えられないが、本市は、その体制作りにも努めている段階だと理解したが、それでは、平成23年11月に、厚生労働省から出された「新たな地域精神保健医療体制の構築に向けた検討チーム第2ラウンド取りまとめ」では、これまで入院に至った認知症患者の激しい周辺症状が沈静化するには約1か月、平均入院日数6か月のところ、今後、2か月で退院させるという目標を立てているが、本市の認知症高齢者の入院状況は？

**【答弁】** 病状や家族の介護状況などによって異なるが、一般病院では数日から数ヶ月、精神科病院では、数か月から数年間に及んでいる方もいると聞いている。



## 三井みわこの質問 ⑤

国が示した今後の認知症施策の方向性では、この精神科病院等の入院期間の短縮が目標とされている。激しい周辺症状が入院により沈静化した場合でも、退院後の在宅における受入れ体制や、施設などの地域の受け皿・ケアが整っていないければ、本市においても家族や地域が困惑することは明らか。国では、既に認知症高齢者300万人、その家族、介護者等、周辺の人まで含めると1,000万人を超えと言われる、本市でも早急に対応が必要と思われる。

次に、高齢者虐待にかかるとのケースの内、被虐待者の約8割は認知症疾患高齢者とも言われているが、本市では在宅における認知症介護にかかわる高齢者の虐待について、どのような対策を講じているのか？

**【答弁】** 介護する家族に対して「認知症の理解」や「適切な介護方法」、制度やサービスの利用方法等について情報を提供する「認知症介護講習会」の開催や、介護家族同士が話し合って介護のヒントを得たり、心の負担を軽くすることを目的とした「介護相談・交流会」の開催を行っている。

## 三井みわこの質問 ⑥

では、本市で増加が予測される独居等の認知症高齢者の具体的な支援体制は？

**【答弁】** 近隣住民や民生委員などが、早期に高齢者の変化に気づき、あんしんケアセンターや保健福祉センターにつなぐことが重要であると考え、認知症に関する知識や認知症の方への理解を深めていただくため、認知症サポーターの養成や市民を対象とした講習などを行っている。

## 三井みわこの質問 ⑦

認知症は、激しい周辺症状が表れ初めて医療機関を受診するケースが多く、受診まで要する期間は1年という調査結果も示されている。早期発見・早期治療の観点から言えば、もっと早く受診につなげる積極的な体制整備が必要と考えられるが、本年度、認知症疾患医療センターが千葉市に開設されたことに伴う、当該センターにおける相談・鑑別件数、また、「あんしんケアセンター」との連携状況について、早期発見・早期治療に結びついているか、その実績は？

**【答弁】** 本年10月末までに認知症疾患医療センターに寄せられた相談は208件あり、うち外来診療を行ったケースが77件、鑑別診断を実施したケースが40件。また、あんしんケアセンターでは、認知症が疑われる場合に、認知症疾患医療センターに紹介するなどしており、今後、両センターの更なる連携の強化を図っていく。

## 三井みわこの質問 ⑧

医療と介護の連携を強化することが認知症疾患医療センターの重要な役割でもあり、また、あんしんケアセンターの機能強化のためにも、紹介以上の実質的な連携を大いに期待している。

さて、この早期発見・早期治療には、周りの家族や地域の方々の認知症に対する理解と知識の普及・啓発も重要となる。本市でも、認知症に関する市民向けの啓発・理解促進の施策を実施していると思うが、何を実施し、どのくらいの数の市民を対象にされたのか？

**【答弁】** 昨年度は、町内自治会や民間事業所などを対象に認知症サポーター養成講座を42回開催し、1,254人のサポーターを養成したほか、認知症高齢者の家族などを対象に講習会を4回開催し、264人が参加している。

## 三井みわこの質問 9

しかし、千葉市の認知症サポーター数は、政令指定都市の仙台市、さいたま市とほぼ同じ程度の比率だが、高齢化率24.6%でサポーター比率7.8人の静岡市、高齢化率22.8%でサポーター比率9人の浜松市に比べ、本市では十分な数とは言えない。今後3年間で、どのくらいのサポーター数を見込んでいるのか？

**答弁** これまで、毎年1,500名程度のサポーターを養成してきたが、今後も更なる養成に努めたい。

## 三井みわこの質問 11

早急に研究した結果を実施していただきたい。なぜなら、それが地域包括ケアではないか。地域で見守られ、支えられながら認知症になっても尊厳ある生活が持続できる社会は、自然発生的、おまかせ的ではできない。

次に、認知症高齢者の権利擁護は、今後、本市でも重要な問題となってくるが、特に、介護・医療の場面で、認知症高齢者本人に代わって誰が決めるのかということは、未解決の課題である。この家族がいない認知症高齢者の権利擁護について、どのような対応しているのか？

## 三井みわこの質問 12

では、認知症高齢者が増加している本市において、高齢者ご本人が、事前に千葉市の成年後見支援センターへ相談された件数、法定後見人の市長申立ての件数は？

**答弁** 後見に関する相談は60件で、市長申立てを行った件数は15件となっている。

## 三井みわこの質問 14

今の答弁の中の医療関係者には、認知症に関わる医師をはじめとした精神科医療の関係者は含まれているか？また、特段経費はかかっていないとのことだが、地域ケア会議に出席される方々は、他の医療相談員、看護師、理学療法士等の地域関係者は、ボランティアで出席しているのか？

**答弁** 地域ケア会議は、個別ケースの状況に応じて医師や看護師等が参加している。なお、特に報酬は支払われていない。

## 三井みわこの質問 10

そのサポーターを、本市として積極的に活用し、直接的な支援に協力いただく具体的な施策は何か考えているか？

**答弁** 認知症サポーターには、認知症を正しく理解していただくとともに、認知症の方やその家族を地域で見守るという役割を担っていただいているが、他都市においては、認知症サポーターが介護施設でボランティアとして活躍している事例等もあることから、今後、活用方法について研究していく。



**答弁** 成年後見制度の利用が可能だが、申立てを行う人がいない場合には、保健福祉センター職員が本人の状況等を調査し、市長名で家庭裁判所に申し立てを行っている。また、比較的軽度な方には、成年後見支援センターで行っている日常生活自立支援事業の利用を促している。

## 三井みわこの質問 13

独居の高齢者の中には、未婚や本人以外、家族のいない方が多くいる。そのような方の対応のため市長申し立ても増える可能性もあり、一層の充実を要望する。

次に、認知症ケアにおける地域での見守りは重要だが、改正介護保険法は、多職種協働の「地域ケア会議」の開催を上げている。本市も「あんしんケアセンター」へ委託の方針（保険者の方針）として、地域ケア会議の構成員に地域の在宅医療を担う関係者を入れるなど多職種化を図り、地域密着型の連携システムを構築すると示しているが、これは、あんしんケアセンターの自己努力のみでは不可能。そこで、各センターにおける地域ケア会議にあたって、当局のバックアップの状況、医療職の参加の状況、地域ケア会議にかかる運営経費の状況は？

**答弁** 地域ケア会議には市職員も構成員として出席しており、また、議題によっては、医師や看護師、医療相談員なども出席している。なお、会議には特段経費はかかっていない。

## 三井みわこの質問 15

地域での見守り、特に認知症高齢者を地域で支えていくことは、本市の地域福祉の推進にも関係する。例えば、千葉県社会福祉協議会では、コミュニティ・ソーシャルワーカーの育成を既に始めているが、本市ではコミュニティ・ソーシャルワーカーの育成は検討されているか？

**答弁** コミュニティ・ソーシャルワーカーについては、地域福祉を推進するため、昨年度から各区の社会福祉協議会事務所に、社会福祉士等の知識や実務経験が豊富な職員を1人ずつ配置したほか、県社協が主催する研修等に参加させるなど、育成に努めている。

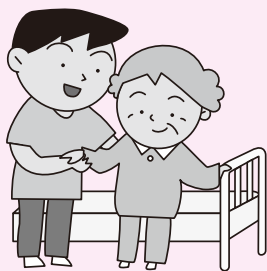


## 《三井みわこの意見・要望》

今回は、本市における認知症高齢者に対する支援について、集中的に質問させていただきました。

改正介護保険法では、施設から在宅介護中心の地域包括ケアへと大きくシフトされました。当初、国は、施設介護は費用がかかるので、給付を抑制するため在宅へシフトさせると言っていたのですが、今回の国の試算では、地域包括ケアが施設ケアよりも介護に係る財源を増加させ、仮に消費税を増税しても、2025年には

1号被保険者の月額介護保険料が8千円を超えることが明らかになりました。



認知症介護は、決して特別なことではなく、誰もが突然迎える可能性が

高く、認知症の方を地域で支えるということは、近い将来、独居高齢者の介護や老老介護の世帯の問題が、一層身近で深刻化することとなり、さらには、医療の場における延命治療の是非や、介護現場における看取りの判断を、本人に代わって誰がするのかという未解決の問題を顕在化させます。

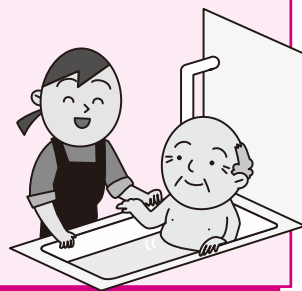
「自宅を病院・施設の部屋に、地域の通りを病院・施設の廊下」という地域包括ケアの社会が実現するには30年かかります。認知症になっても安心して自宅で過ごせることは理想ですが、そのためには、これまで述べた独居や高齢者世帯への見守り、権利擁護、

また、地域包括ケアは、これまでの介護保険サービスが、大きく認知症に対する介護サービスへ大きく転換されたことを意味します。今回、全国で認知症高齢者305万人という数字も、地域の中で認定を受けていない、把握できない方々を含めると更に多くの認知症高齢者が潜在していると思われ、この増加する認知症高齢者への対策は最重要課題です。

しかし、新たに始まった24時間定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスも、認知症介護で重要な「顔なじみ」のサービスが提供できず、結果、ご本人に混乱をもたらし、認知症のケアに不向きであることが想像できます。

さらには医療と介護の実のある連携、受け皿としての施設の整備、介護にからむ離職の問題等々、認知症対策として千葉市が今すぐにも取り組むべき課題が山積みされています。

その意味で、本市の今後の取り組みには大いに注目していますが、最後に、今回の認知症高齢者への支援の中でも、まずは「認知症疾患医療センター」と「あんしんケアセンター」、そして医療機関と介護施設との実質的な連携強化、地域の社会資源となる認知症サポーターの活用、コミュニティー・ソーシャルワーカーや市民後見人等の更なる育成を、特に強く当局には要望しました。



皆様からのご意見・ご要望がございましたら、こちらまで。

発行：三井美和香

千葉市中央区登戸1-11-13-203

TEL:043-216-5432 FAX:043-216-5433

E-mail: mm@mitsui-miwako.com

Twitter: twitter.com/mitsui-miwako

三井みわこで

検索

URL: <http://www.mitsui-miwako.com/>



### 三井みわこ

### プロフィール Profile

- 1971年 生まれ 千葉市中央区登戸在住
- 2002年 NPO法人ハートケアゆーあい(障がい者の施設)設立
- 2003年 聖徳大学大学院 児童学研究科 修士課程修了
- 2006年 NPO法人政策塾「一新塾」(熊谷市長と同期)卒塾
- 2007年 社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム「ほんだくらぶ」の運営に携わる
- 2011年 千葉市議会議員初当選

\*三井みわこは、教育未来委員会、少子高齢社会問題調査特別委員会に所属し活動しています。